



UDP の生成

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、すべての IP フォンユーザのプロファイルを生成して挿入することによって、エクステンションモビリティをすばやくセットアップする方法について説明します。BAT では、ユーザが制御しているデバイスの数に関係なく、すべての電話機のユーザデバイスプロファイルを生成します。たとえば、ユーザが 2 台のデバイスを制御している場合、BAT ではデバイスごとに 1 つずつ、合わせて 2 つの別個のユーザデバイスプロファイルを生成して、それらを同じユーザに関連付けます。BAT は、生成したこれらのユーザデバイスプロファイルの 1 つをそのユーザのデフォルトのユーザデバイスプロファイルとして設定します。BAT は、電話機モデルごとの電話ボタンテンプレートに基づいて、すべての IP フォンのユーザデバイスプロファイルを生成します。



(注)

この操作を実行するために、ユーザデバイスプロファイルテンプレートまたは CSV データファイルは使用しません。BAT でこれらのユーザデバイスプロファイルを生成した場合、それらはそのユーザに関連付けられます。

- [ユーザデバイスに関するユーザデバイスプロファイルの挿入, 1 ページ](#)
- [ユーザデバイスプロファイルの生成関連のトピック, 3 ページ](#)

ユーザデバイスに関するユーザデバイスプロファイルの挿入

すべてのユーザに関するユーザデバイスプロファイルを生成できます。

エクスポートユーティリティを使って生成されたファイルを挿入する場合、エクスポートユーティリティは、電話機上で設定される回線ごとに数字のサフィックス `_n` を付加します。たとえば、“sales_7960_1_3.txt” という名前のエクスポートファイルは、このファイル内のすべての電話機レコードで回線 1 と 3 が設定されていることを示します。UDP プロファイルの挿入時には、付加されたサフィックスを確認しながら、正しい回線設定を含む電話機テンプレートを選択できます。

CTIポートの追加時にはダミーMACアドレスオプションを使用できます。このオプションでは、ダミーMACアドレスの形式でCTIポートごとに一意のデバイス名が付与されますが、後でCisco Unified Communications Manager Administration または Unified CM 自動登録電話ツールを使用してこれを手動で更新できます。

ダミーMACアドレスオプションにより、次の形式でダミーMACアドレスが自動的に生成されます。

XXXXXXXXXXXX

ここでXは、任意の12文字の16進数値（0～9とA～F）を表します。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)]>[ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)]>[ユーザデバイスプロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles)]の順に選択します。
[ユーザデバイスプロファイルの挿入の設定 (User Device Profiles Insert Configuration)]ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- [ユーザデバイスプロファイルの固有の詳細の挿入 (Insert User Device Profiles Specific Details)]ラジオ ボタンをクリックして、カスタマイズされたファイル形式を使用するUDPレコードを挿入します。[ステップ 3, \(2 ページ\)](#) および [ステップ 4, \(2 ページ\)](#) を続けます。
 - [ユーザデバイスプロファイルのすべての詳細の挿入 (Insert User Device Profiles All Details)]ラジオ ボタンをクリックすると、[すべての詳細 (All Details)]オプションを使って生成されたエクスポート済みUDPファイルからUDPレコードを挿入できます。
- ステップ 3** [ファイル名 (File Name)]ドロップダウンリストボックスで、この特定の一括トランザクション用に作成したCSVデータファイルを選択します。
- ステップ 4** [固有の詳細 (Specific Details)]オプションの[ユーザデバイスプロファイルテンプレート名 (User Device Profiles Template Name)]ドロップダウンリストボックスで、このタイプの一括トランザクション用に作成したBAT電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 5** CSVデータファイルに個別のMACアドレスを入力しなかった場合は、[ダミーMACアドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)]チェックボックスをオンにする必要があります。[ステップ 9, \(3 ページ\)](#) にスキップします。
ユーザに割り当てられる電話機のMACアドレスがわからない場合に、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイス用にMACアドレスが登録されます。データ入力ファイルでMACアドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。
- ステップ 6** 該当する場合には、次のオプションを選択します。
- テンプレート内の既存の電話機に関する電話機設定を変更する場合は、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)]チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザデバイスプロファイル情報もまた更新されます。

- ユーザの現在の IP 電話に基づいてすべての電話機のユーザ デバイス プロファイル レコードを生成および挿入するよう BAT に指示するには、[ユーザが制御するデバイスを使用 (Based on devices controlled by users)] ラジオ ボタンを選択します。
- 生成されたユーザ デバイス プロファイルをログアウト プロファイルとして使用するようデバイスに指示するには、[ユーザ デバイス プロファイルをデバイスのログアウト プロファイルとして設定 (Set User Device Profile as Log Out Profile for the device)] チェック ボックスをオンにします。

ステップ 7 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 8 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに UDP レコードを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で UDP レコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 9 電話機レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールおよびアクティブ化します。

(注) レコードに関するいずれかの情報に問題がある場合、BAT はそのユーザ デバイス プロファイル レコードを挿入しません。

関連トピック

[BAT ログ ファイル](#)

[ジョブのスケジュール設定の管理](#)

[TAPS の概要](#)

[ユーザ デバイス プロファイルの生成関連のトピック, \(3 ページ\)](#)

ユーザ デバイス プロファイルの生成関連のトピック

- [ユーザ デバイスに関するユーザ デバイス プロファイルの挿入, \(1 ページ\)](#)
- [ジョブのスケジュール設定の管理](#)
- [TAPS の概要](#)
- [BAT ログ ファイル](#)

